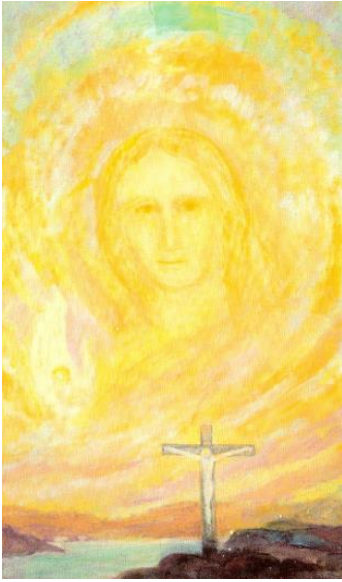


キリスト者共同体東京集会 2018年受難節・復活祭のご案内



受難節

3月25日（棕櫚の日曜日）聖化式後

11:45 日曜子供礼拝式

12:15 種まき祭り（四歳から。要申込。）

14:00～15:00 講演 **聖受難週の意味** 輿石麗

聖受難週 3月26日（聖月曜日）～3月30日（聖金曜日） 10:30 人間聖化式
礼拝後 11:45 より **ペリコーペとともにたどる聖なる一週間**

復活祭は過去の出来事ではありません。毎年春のこの時期、すべての人間のためにキリストはひそかに復活しつづけています。聖なる一週間の出来事を福音を通して心によみがえらせ、そのことを感じてみましょう。

26日（聖月曜日）「無花果はなぜ枯れたのか」

29日（聖木曜日）「最後の晩餐」

27日（聖火曜日）「オリブ山の黙示録」

30日（聖金曜日）「ゴルゴタへ」

28日（聖水曜日）「沈黙の水曜日」

復活祭

4月1日（復活の日曜日）

10:30 復活祭の人間聖化式

11:45 日曜子供礼拝式

12:20 復活祭の卵祭り（四歳から。要申込。）

（子どものお祭りチラシの必要な方はご請求ください。）



14時より **レデンティン復活祭劇 朗読版上演**

中世ドイツで誕生したキリスト復活劇の傑作レデンティン復活祭劇、十字架上の死の後、蘇ったキリストが冥府に下り、悪魔に捕えられていた人々を救済するという、現代人の心にも訴える真剣なテーマを、歌あり活劇あり、時には笑いありの三幕物で楽しく体験できます。「復活ということがやっとわかった」、という声も聞かれます。

皆様とともに楽しみながら過ごせればと願っております。どうぞお誘いあわせの上ご来場いただけますと、誠に幸いです。子どもは小学校上級生から観劇できます。



死ななかつた男

～ジャック・リュセランのキリスト体験

興石祥三

パリに生まれたリュセランは、幼い頃に視力を失いましたが、それにもかかわらず第二次大戦のさなか、フランスのレジスタンスの活動家となりました。そしてドイツ軍にとらえられ、収容所にいた時、極限状況のなかで驚くべき体験をしました。それは死のさなかでの強烈な「生命」体験でした。この数奇な体験は、現代のキリスト体験のひとつのあり方を鮮明に語ってくれます。



4月29日(日) 13:00~15:00 第六回「日本の集い」

キリスト教の伝統のない日本で、なぜ私たちはキリストのまわりに集うのでしょうか？ 司会による進行と礼拝による締めくくりを基本に、私たちの生きる日本について語り合い、考える場になっていくことができるよう続いています。どうぞどなたでもご参加下さい。



5月3日(木)～5日(土) 連休講座

"私である"ことの秘密

～ヨハネ福音書の七つの私言葉

すべての人が"私である"ことを目指している現代、ヨハネの「私言葉」には現代においてキリストを身近に感じるかけがえのない鍵が隠されています。キリストのこの言葉が示しているのは、私たち誰もが有している"私である"という事は、たんに個人的で孤独で利己的なものにとどまらず、じつは共同体に開かれた、暖かく、愛に満ちたものなのだという事なのです。それをどう実感し、どのようにして現実のものにできるのか。皆様とともに三日間、この"私である"について考え、語りあいたいと思います。いつものように音楽の時間も予定しています。お使いの聖書をお持ちください。

	5月3日(木)	5月4日(金)	5月5日(土)
10:30	人間聖化式	人間聖化式	人間聖化式
11:45 - 13:00	1. "命のパン"	3. "扉"、4. "良き羊飼"い"	6. "道、真理、命"
	昼休み	昼休み	昼休み
14:00	音楽の時間	音楽の時間	音楽の時間
14:15 - 15:30	2. "世界の光"	5. "復活と命"	7. "真のぶどう"

以上の催しは久が原集会所で行われます。入場無料、会場にて自由なご寄付をお願いします。